

今後の検討事項

1 次年度のモデル調査実施に向けた検討事項

1.1 奈佐の浜以外の海岸清掃について

調査範囲のうち奈佐の浜以外の浜は、船外機を用いた回収を予定している。しかし、船外機が接岸することが出来ない浜もあり、これらの浜での回収についても別途検討する必要がある。

なお、これまでのクリーンアップ調査では、奈佐の浜への漂着ゴミが多かった事と海況の悪い時期であった事から奈佐の浜以外では実施していない。

奈佐の浜以外の浜は、2月に踏査を実施しており、漂着ゴミの多くは発泡スチロールとペットボトルで大きなものとして流木の漂着を確認している。

来年度以後、奈佐の浜以外の浜での船外機を用いた効率的な漂着ゴミの回収方法を検討する。現時点で発泡スチロールやペットボトルの回収は、浜でビニール袋に回収後、船外機で運ぶことが可能であると予想している。特にここでは、大きな流木であり、細分した後に船外機で運搬するか、ある程度の大きさのまま船外機で奈佐の浜まで曳航するか等を検討する。

1.2 奈佐の浜における効率的な漂着ゴミの回収について

奈佐の浜は、長さが約400mで幅が10m程度の砂浜である。ただし、奈佐の浜の南側には貝殻がみられ、漂着ゴミが貝殻と混在した状況で堆積している場所がある。これまでの調査では、人の手による回収を実施してきたが時間を要する作業を強いられている。

そこで、野外で枯葉等の清掃に使用するバキューム（掃除機）を用いて回収することが可能か検討する。

2 モデル調査終了後の継続的な海岸清掃体制等の検討事項

2.1 今後の海岸清掃の体制について

本地域でのモデル調査は次年度で終了となるが、今後も継続的に海岸清掃を行っていくためには、海岸管理者である地方公共団体が地域住民等の関係者と連携して海岸清掃を進めていくことが重要である。

このため、本地域での体制・枠組作りや、効率的・効果的な漂流・漂着ゴミの回収・処理方法について検討する。

これまでに奈佐の浜では、三重県から補助金を受けて、鳥羽市が主体となり地元漁業者による清掃が毎年実施されている。新たな体制づくりの検討も進めると同時に、既に体制として成り立っている清掃活動の拡大について方法を検討する。

2.2 「伊勢湾再生推進会議」等の関係者との協議の場への情報発信について

答志島に漂着するゴミの問題は、漂流ボトルの放流調査の結果を踏まえれば、伊勢湾全体の問題であると思われる。伊勢湾全体の問題について議論する場として「伊勢湾再生推進会議」が既に設置されている。この「伊勢湾再生推進会議」等の協議の場において、漂着ゴミの答志島における現状や本モデル調査の成果を発信し、3県1市（三重、愛知、岐阜、名古屋市）や関係機関に答志島の問題が伊勢湾全体の問題であるという認識を醸成していただき、伊勢湾地域内の様々な関係者が連携して今後の廃棄物の排出抑制や海岸清掃を行っていくための協力体制等について検討する必要がある。